

2.3 Check(点検、評価)段階における有益な情報

2.3.1 対策の実施状況の確認

アクションプランとして策定した場合には、行政側の施策を中心に、協議会あるいは従来計画の枠組みで進捗管理を行っている場合が多い。一方、マスタープランとして策定した場合には、既存計画の枠組みにおいて従来どおり進行管理を行っているケースが多い。

また、住民側の実施状況については、行政側からのチェックではなく、参画しているNPOや住民団体等が目標を自身で設定し、自己評価を行った結果を協議会で持ち寄り、短期計画の見直しやNPO同士の連携・役割分担の議論に役立てているケースもある。

<解説>

(1) 実施状況の確認事例

とやま21世紀水ビジョンでは、策定から15年間にわたり図2-32に示す内容で毎年度評価を行っています。

また、やまぐちの豊かな流域づくり構想(榎野川モデル)でも毎年度、海老川流域水循環系再生第二次行動計画では見直し年次において、実施状況の確認を行っています。

資料 1

水ビジョンに基づく各種施策の進行状況と 平成18年度施策概要について

1 とやま21世紀水ビジョンの概要	P. 1
2 水ビジョンに基づく各種施策の進行状況等	P. 2
3 水ビジョンに掲げた整備目標の達成状況	P. 4
4 平成17年度関係事業費及び平成18年度予定事業費	P. 11
5 平成18年度水ビジョンに基づく各種施策の概要	P. 12
6 水に関わる新規施策等について	
(1) 「富山の水環境」の出版について (富山県立大学短期大学部環境システム工学科)	P. 16
(2) 「県民が支えとやまの森づくり」について (森林政策課)	P. 17
(3) 「改定地下水指針の概要」及び 「地下水涵養手法の検討結果の概要」について (環境保全課)	P. 18
(4) 「とやまの名水」の追加選定について (環境保全課)	P. 24

図 2-32 毎年度開催している会議の次第事例(とやま21世紀水ビジョン推進会議より引用)

表 2-11 取組状況の確認事例(やまぐちの豊かな流域づくり構想(榎野川モデル)会議資料)

やまぐちの豊かな流域づくり構想(榎野川モデル)の取組状況について			資料 1		
NO	主な取組み	短期的な取組みの大項目	短期的な取組みの小項目(具体的なもの)	平成17年度等の取組状況	
1	榎野川水系の清流保全対策の推進	◆総合的な清流保全の推進	◎「榎野川水系の清流を保全するための条例」の制定	山口市が条例制定済み(平成16年4月1日施行)	
			●汚水処理施設整備構想の推進	計画的に推進(16年10月に整備構想を見直し)	
		◆生活排水対策の推進	●竹炭等による水質浄化(H14年度～)等	平成14年度に榎野川水系前田川で竹炭を設置 平成16年度経過観察	
			●生活排水浄化対策協議会の取組	1 普及啓発事業 ①「親子の水辺の教室」の開催(2回、約100人参加) ②モデル地区における実践活動(1地区) ③モデル地区内の河川等の水質検査 2 研究会等 ①「ふるさとの川セミナー」の参加 ②榎野川水系クリーンキャンペーンへの参加	
			●公共下水道の整備	平成16年度末の下水道普及率(1市3町 57.1%) 山口市 74,878人、53.8%、秋穂町 1,425人、17.8% 小郡町 21,495人、94.7%、阿知須町 4,163人、46.3% (参考 生活排水処理率 16年度末 80.2%)	
		◆廃棄物による汚染の未然防止対策	●集落排水処理施設の整備	【農業集落排水事業(農村整備課)】 H16・川西地区川西Ⅱ期地区(山口市)で事業実施 H16…二島東(山口市)、宮之且(秋穂町)地区で供用開始(事業完了) 【漁業集落環境整備事業(漁港漁村課)】 ・農業集落排水処理施設 H11～20…山口市長浜地区において事業実施(山口市秋穂長浜浄化センターに接続)・第1期分はH17 4月供用開始	
			●浄化槽の整備 等	平成16年度浄化槽設置数 山口市278基、小郡町5基、秋穂町32基、阿知須町35基	
2	源流の森づくり(保全・利活用)	◆源流の森の公園整備・管理	●源流の森公園の整備	四季の森の整備(住民参加による伐採、ケヤキ、クスギ等の植樹) 松柄地区での「なりもの里」構想のとりまとめ	
		◆自然にやさしい森づくりの継続	●NPO等による取組	NPO等による大内塗りの森、宇津木の里、マロニエの森の会の管理	
3	自然豊かな川づくり	◆多自然型川づくりの推進	●生物の生息・生息地に配慮した河川の整備	ほたる飛び交うきらな川づくり調査業務実施(H13～H15)	
			●一の坂川のホタル護岸工法を下流域へ拡大、他地域への応用	ホタル護岸工法を検討、実証フィールドの適地選定 実証フィールド工事の実施(経過観察)	
			●生物多様性を確保する構造・工法の調査・研究・提言	多自然型川づくりの調査研究	
		◆魚・水生生物がのぼる川づくりの推進	●官学共同研究の実施(H10年度～)	山口大学工学部との共同研究実施 平成14年度カワナ生息条件の研究 平成15年度ホタル生息場評価手法の研究 平成16年度ホタル水路適地の評価と探索手法の開発	
			◎エビ、カニ等の甲殻類にも配慮した多様種対応型魚道の設置	多様種対応型魚道を研究	
◆外来種対策の推進	●間伐材利用魚道の設置	平成15年度で事業完了(矢原井堰、井手ヶ原河川公園付近に14基設置)			
	◎アユの遡上阻害地点等問題箇所の把握(漁協等)	漁協により、随時、問題箇所の掌握中			
	◎魚道の水量調節	平成17年度魚道改築工事の実施(丁田頭首工(宮野下))			
4	山口湾の干潟・藻場の再生	◆豊かな干潟の再生	◎自然再生推進計画調査事業の実施(H15、16年度)	干潟再生小委員会の取組 平成15年度 河口干潟詳細調査 平成16年度 置換試験(中潟)、耕種試験(南潟、新地潟) 平成16年8月 榎野川河口域・干潟自然再生協議会の設立 平成17年度 拡大実証試験(中潟)、人手等による耕種作業(南潟)等	
			◎自然再生事業の実施(H17年度～)	平成17年3月 自然再生全体構想策定 平成17年度～ 自然再生事業計画等の協議(ワーキンググループ)での検討)	
		◆豊かなアマモ場の再生	●アマモ場の造成実験(H14年度～)	地域住民等との協働による造成試験を実施	
			◎現地実証試験による効果確認と評価(H15年度～)	H14に実施した栄養株移植試験、H16に実施した播種試験の追跡調査を実施 (H18以降に事業化)	
◆竹格子を用いたアサリ干潟藻場の回復	◎アマモ場の造成	(H18以降に事業化)			
	●竹格子によるトビエイの食害対策(H15年度～)	H15に竹格子50台を設置			
5	森林の適正な管理・保全と創造	◆造林補助事業等による水源地の森林整備	●造林事業の推進	山口市等の平成16年度の取組状況 森林整備4.4ha	
			●水源地域整備事業の推進	山口市等の平成16年度の取組状況 森林整備19ha	
6	安全で安心できる川づくり	◆護岸工整備事業の実施	●計画規模1/30確率を目指した河川改修の実施	榎野川河川改修事業を継続実施 榎野川水系古甲川で河川改修事業継続実施	
			◆洪水ハザードマップの作成	●洪水を想定して地図上で浸水の程度と避難所などを図示したハザードマップを作成(H14、15年度)	平成15年度に榎野川ハザードマップを作成済み
			◆未改修区間の整備	◎支川仁保川の高井堰から約4km上流区間の未改修区間の整備	平成18年度以降対応

